

# 【生活習慣病リスク検査】

必ずお読みください

食後7時間以上経過した空腹時の採血をお願いします。

ご不明な点などございましたら下記までご連絡ください(平日9:00~17:15)

TEL:0120-82-1213(H.U. POCKeT株式会社)



検査ってどんなことをするの?

血液の成分を測定することにより体内の各臓器の機能状態を判定し、健康状態や疾患の推定ができます。

人の臓器はいろいろな機能を有する数多くの細胞で構成されています。その細胞が障害を受けた時、細胞が破壊され、その臓器特有の物質が血液中に流出し、健康な時の値（正常値）から大きく外れます。そのため血液を分析することにより疾患の診断・治療効果・病態の程度・予後の判定・健康状態などを知ることができます。血液などを化学的に分析することを生化学検査といいます。



		働きなど	備 考
肝機能	AST (GOT)	アミノ酸を作る働きをする酵素。心臓・筋肉・肝臓に多く含まれており臓器や組織が損傷すると血液中の値が増加する。  【高値で疑われる疾患】肝疾患 心臓や筋肉の病気	血液採取時に時間をかけすぎると溶血により値が上昇する場合がある。心筋梗塞でも上昇する。  基準値：10～40U/L
	ALT (GPT)	アミノ酸を作り出す酵素。特に肝臓に多く含まれ肝細胞の変性や壊死がおこると血液中の値が増加する。  【高値で疑われる疾患】肝疾患	肝硬変や肝がんの疑いがある場合にはALTよりAST値が高くなり、急性慢性肝炎の疑いがある場合にはASTよりもALT値が高くなる。  基準値：5～40U/L
	γ-GPT	アミノ酸を作る酵素。肝臓・胆のうなどに含まれる。特にアルコールや薬物による肝障害に敏感な検査。(肝臓の解毒作用に関係している)  【高値で疑われる疾患】肝胆道系疾患	アルコール性肝障害で著しい上昇を示す。2週間の禁酒ではほぼ正常化する。  基準値：男性70U/L以下 女性30U/L以下
栄養状態	TP総蛋白	血液中には100種類以上のタンパク質が存在するが、血液中のすべてのタンパク質の総量。  【高値で疑われる疾患】慢性肝炎、肝硬変、多発性骨髄腫、膠原病、脱水など	特にタンパク質の合成に関わる肝臓や、タンパク質の排出に関わる腎臓の疾患で大きく変動します。健康な人でも、偏った食事をしていると栄養摂取不足から、低タンパク状態になることがある。  基準値：6.7～8.3g/dL
	ALB アルブミン	総蛋白の約6割を占める重要な蛋白。栄養状態の指標となるほか肝臓で産生されるタンパク質であるため、肝障害の程度を反映する値になります。  【低値で疑われる疾患】肝硬変、低栄養、ネフローゼ症候群	アルブミンは半減期（血中の濃度が半分に減るまでの間）が14～21日と長いため、血液検査のアルブミンは約3週間目の栄養状態を示しています。  基準値：3.8～5.2g/dL

裏面へ

		働きなど	備 考
腎機能	BUN (尿素窒素)	血液の中の尿素に含まれる窒素成分のこと。体内にタンパク質が利用された後の老廃物です。腎臓の働きが悪くなると濾過しきれない成分が血中の中に残ります。  【高値で疑われる疾患】腎炎、ネフローゼ、腎腫瘍、尿路結石 【低値で疑われる疾患】肝硬変、肝不全、低栄養	月経直前には高値を、妊娠中には低値を示す。  基準値：8.0～22.0mg/dL
	CRE (クレアチニン)	クレアチニンリシン酸という筋肉の動かす重要なエネルギー源で物質が代謝された後にできる老廃物。腎臓でろ過されて尿中に排出されるため、クレアチニンの濃度が上昇することは腎臓の機能が低下していることを示します。	食事などの外的因子の影響を受けない腎機能の優れた指標。筋肉体质の人は高値を、非筋肉体质の人は低値を示す場合がある。  基準値：男性：0.61～1.04mg/dL 女性：0.47～0.79mg/dL
脂質	T-CHO 総コレステロール	血液中の重要な脂肪です。主な働きは細胞膜や血液壁を構成する、副腎皮質ホルモンや性ホルモンを合成する材料になる。食物の消化・吸収に欠かせない胆汁酸の材料になる。	多すぎると動脈硬化など、生活習慣病を引き起こす原因となる。女性は加齢と共に増加傾向。過食、運動不足、肥満で増加。  基準値：150～219mg/dL
	TG (トリグリセライド) 中性脂肪	人間が活動するための重要なエネルギー源。食後は食べた脂肪や糖質が血液中に入り、肝臓で合成される。血液に運ばれてエネルギーとなる。体内でエネルギーとして使われなかった分は皮下脂肪になる。肥満・心臓病・糖尿病などの程度を測定する。	糖分の過剰摂取、アルコールの多飲、過食、運動不足で増加。食後30分位から上昇し始め、4～6時間後に最も高くなる。早朝、空腹時の採血が良い。  基準値：50～149mg/dL
	HDL-C HDLコレステロール	善玉コレステロールとも呼ばれる。増えすぎたコレステロールを回収し、さらに血液壁にたまつたコレステロールを取り除いて、肝臓へ運び、動脈硬化を防ぐ働きがある。	低値の場合、運動、禁煙により改善される。  基準値：男性：40～86mg/dL 女性：40～96mg/dL
	LDL-C LDLコレステロール	悪玉コレステロールとも呼ばれる。肝臓で作られたコレステロールを全身に運ぶ役割を果たしている。増えすぎると血液壁に沈着する。	動脈硬化疾患の診断や経過モニタリングにも使用される。  基準値：70～139mg/dL
炎症反応マーカー	CRP (C反応性蛋白)	C-リアクティブ・プロテインという血液中のタンパク質の一種。体内に炎症が起きたり、組織の一部が壊れたりした場合に現れる。正常の血液にはごく微量にしか見られないため、炎症の有無を診断するのに使用される。	数値が上がってくるときは何かしらの感染症にかかっていることが多い、細菌やウィルスによる感染症が疑われる。細胞が破壊されることによって増えるものは悪性腫瘍、熱傷、外傷、手術後があります。  基準値：0.14 mg/dL 以下
痛風	UA 尿酸	プリン体という物質が細胞が壊れたり、エネルギー代謝によって分解されてできる廃棄物です。人間の体内では肝臓において生成され腎臓から尿中に排出される。	プリン体の多い食品の過剰摂取でも高値を示す。(レバー・肉汁・いわし・あじ・ナツツ類・貝類など) 果糖を多く含む清涼飲料水やジュースを過剰摂取しても値が上昇する。腎機能障害がある場合でも排泄できず高値を示す。  基準値：男性：3.7～7.0mg/dL 女性：2.5～7.0mg/dL
糖代謝	HbA1c (NGSP)	赤血球内のタンパク質の一種であるヘモグロビン(Hb)とブドウ糖が結合したグリコヘモグロビンのこと。検査前1～2か月前の平均値な血糖値が分かります。	糖尿病患者の血糖コントロールの指標としても広く用いられる。  基準値：4.6～6.2%

詳しい検査内容は次のとおりです。

〔判定基準〕 各項目、基準値からはずれたものを異常値とする

〔検 体〕 血液200μL

〔必要日数〕 約2週間 休日を含む場合、必要日数よりかかる場合があります

〔保 存〕 室温

〔輸送方法〕 郵送、受付票と検体を同封してください

※受付票には、住所、氏名、電話番号、生年月日、年齢、性別、アンケートにお答えください。

検査は株式会社日本医学臨床検査研究所が行います。

